

来期(2008年3月期)の業績の見通し

(2007年5月現在)

来期の日本経済については、企業部門の好調が家計部門へ波及し、民需中心の景気拡大が続くと見込まれます。アジアでは中国の景気拡大が続いており、米国においても原油価格の動向は懸念されるものの、緩やかな経済成長が維持されると見込まれるため、世界の経済はバランスのとれた成長が続くと予想されます。

このような状況のなかで、機械加工品事業セグメントにおいては、主力製品であるボールベアリングが、需要が堅調な自動車業界・情報通信機器関連業界等への積極的な拡販を進め、これに伴う量産効果とさらなるコスト削減により、一層の業績向上をはかってまいります。また、欧州・米国を中心に航空機市場が好調であり、ロッドエンドベアリングは、この恩恵を受けることが期待されます。ピボットアッセンブリーも需要が好調で売上が順調に推移する見込みです。

電子機器事業セグメントにおいては、情報モーター事業が、生産効率改善、外注管理、及び製品構成の見直し等大きな構造改革をこれまで何度か実施してきており、その成果が期待できます。HDD用スピンドルモーター事業は、引き続きコスト削減の推進と、2.5インチモーターの販売引き上げをはかります。また、キーボード事業では、高付加価値モデルに集中した生産・販売体制への構造転換が完了し業績の安定が見込まれます。計測機器ほかも順調に推移する見込みです。

以上の状況を踏まえて、2007年5月現在の来期業績見込みとしては、売上高335,000百万円に増加、営業利益30,000百万円に増加、当期純利益15,000百万円に増加と予想しています。

事業等のリスク

当社グループの経営成績及び財政状態等に影響を及ぼす可能性のあるリスクを以下のように考えております。なお、文中の将来に関するリスクは、有価証券報告書提出日(2007年6月28日)現在において、当社グループが判断したものであります。

(1)市場環境

PC及び周辺機器、情報通信機器、家電を中心とする当社製品の主要市場は、国内外において競争が非常に激しく、需要が大きく変動するため、経営成績及び財政状態等に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2)為替変動

当社グループの海外売上高比率は高いため、為替相場の変動によるリスクがあります。このため為替予約を中心とするリスクヘッジ取引を行っておりますが、長期的には為替変動により経営成績及び財政状態等に悪影響を及ぼす可能性があります。

(3)研究開発

新規製品・高品質製品を市場に継続的に投入する必要があるため研究開発を行っておりますが、研究開発の成果は不確実なものであり、多額の支出を行ったとしても必ずしも成果に結びつかないというリスクがあります。

(4)重要な訴訟等について

国内及び海外事業に関連する訴訟等の対象となるリスクについては、法務部門が一括して管理しております。将来、重要な訴訟等が提起された場合には当社グループの経営成績及び財政状態等に重要な悪影響を及ぼす可能性があります。

(5)価格交渉

海外製の低価格製品との価格競争は大変厳しいものとなっており、低品質、低価格のニーズを持つ市場では市場シェアを維持・拡大できない可能性があります。

(6)原材料費・物流費等のコスト

外部からさまざまな原材料等の調達を行っており、在庫量の最適化、安定供給と安定価格の継続をはかっておりますが、原材料等の価格上昇が経営成績及び財政状態等に悪影響を及ぼす可能性があります。

(7)海外進出に潜在するリスク

当社グループの生産の多くは、タイ、中国、シンガポール等海外で行われております。海外進出後、長期間が経過し、地場との融合が行われていますが、予期しない法律又は規制の変更、人材の採用と確保の難しさ、テロ・戦争及びその他の要因による社会的混乱といったリスクが内在しております。